

地域連携・協働により生態系ネットワーク形成を推進

管理技術者
武山 直史

木曾三川（木曾川、長良川、揖斐川）流域においては、川とともに育まれてきた流域の自然や文化を保全・活用し、地域の魅力を向上させるとともに、人と自然・人と人との絆を深めることを目的とし、中部地方整備局木曾川上流河川事務所が中心となり、生態系ネットワークの形成に取り組んでいます。木曾三川流域生態系ネットワーク形成では、全国的にも珍しく、イタセンバラやハリヨ、ニホンウナギといった希少魚類をシンボルとして、氾濫原、湧水帯、扇状地、本川・支川といった流域の特徴ごとに区分し、官民学の協働により、全国に先駆けて取り組みを行っています。生態系ネットワークの形成においては、自然環境が有機的につながるだけでなく、流域の社会・経済の面でもさまざまな効果をもたらすことが期待されています。

木曾三川流域生態系ネットワークの取り組みにおいては、流域の市民・自治体・有識者・河川管理者で構成された「木曾三川流域生態系ネットワーク推進協議会」が会議を開き、取り組み評価や計画の見直しなどを行っています。また、地域の小学校や企業、NPO法人などの団体が参加する「木曾三川流域エコネット応援団（以後、応援団とする）」が結成され、地域の取り組み活発化が期待されています。

本業務は、木曾三川流域における多様な主体との連携・協働による生態系ネットワーク形成の取り組みの推進により、地域活性化を図るものです。具体的には、さまざまなツール（図2参照）の作成・活用による取り組みの普及啓発、応援団や地域の連携促進、ハリヨ保全団体同士で連携して各々の課題解決に繋げるための意見交換会の実施（図3参照）などがあります。

また、応援団のモチベーションを上げるために、応援団が一堂に

会して、肩ひじを張らず、ざっくばらんに意見交換ができる場として、「エコネットカフェ2024」という意見交換会を設け、企画立案、運営を行いました（図4、5参照）。これらの取り組みにより、木曾三川の環境を有機的につなぐだけでなく、地域に対して社会的・経済的な効果をもたらす、「木曾三川流域生態系ネットワーク」が形成されてきています。

今後、木曾三川流域生態系ネットワーク形成に関する取り組みがより活発化し、将来も取り組みが継続されるよう、地域連携の強化だけでなく、流域全体の取り組み意識の醸成や活動の担い手である若手の参画に寄与していきたいと考えます。



図1 「木曾三川流域エコネット応援団」のロゴマーク



図2 ツールを活用した取り組みの普及啓発



図3 ハリヨ保全団体の意見交換会

エコネットカフェ2024

プログラム 2025年1月12日 13:00-16:00	
12:30	受付開始
13:00	開会（事務局あいさつ）
13:10	【第1部】活動発表
	①外來種対策の報告（コケバス） 岐阜県水産研究所（代理：事務局）
	②外來種対策等の活動報告（アメリカザリガニ） はりこネットワーク
	③環境省における外來種対策 環境省中部地方環境事務所
	④イタセンバラカードゲームの開発に関わる活動報告 一宮高等学校 生物部
	⑤環境に関する劇の公演等の活動報告 劇団シンデレラ
14:00	—休憩・自由交流—
14:30	【第2部】1.事務局より趣旨説明
	2.全体交流
	④グループディスカッション
	⑤全体ディスカッション
15:45	総括（秋田協議会）
15:50	閉会（事務局 アンケート回収）
16:00	終了（16:30 完全退場）

図4 エコネットカフェ2024のプログラム



図5 エコネットカフェ2024の様子



建設環境研究所

KenKan Consultants Co.,Ltd.

中部支社 名古屋市中区錦3-20-27 電話 052(218)0666